

R7 短信 No.10 1月14日(水)5・6時限目 「総合的な探究の時間」(普通科:HR教室等)

【研究者の話聞く】

今後、個人研究のテーマを決めていく前に、実際に研究者として活動・生活をしていらっしゃる先生方のお話を伺いました。

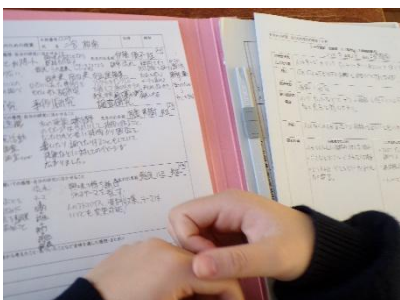
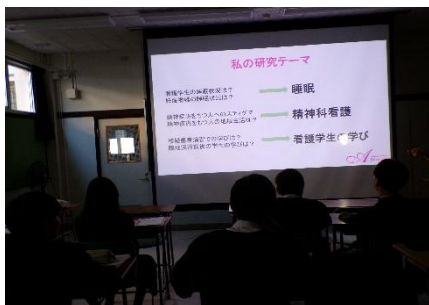
各教室を回る写真撮影者として、一番面白いと感じたのは、それぞれの先生方の視点・内容・形式にそれぞれの個性が現れているということでした。

ある先生は、なぜ研究者になったのか、個人史を中心に研究について話してくださいました。ある先生は、先行論文を読み、仮説を立て、と研究の仕方について、ある先生は、自分の研究内容を具体的に話しながら、問題意識の持ち方・研究の実際を話してくださいました。また、論文を書く大変さなど、研究者の生活を切り口にされた先生もいらっしゃいました。

30分の使い方も、20分講義形式で、10分を質疑応答に。30分、生徒に質問しながら、対話形式で。ほぼ30分講義形式でという先生もいらっしゃいました。

また、聞き手が高校生であることを意識して、話題を選び、言葉を選んでいらっしゃる先生、研究者として当然使うべき言葉で話されている先生など、まさに「答えのない」「すべてが答え」の世界だなぁと興味深く拝聴しながら、各教室を回りました。

生徒は、今後、自分の興味・関心・問題意識に添って、それぞれ個人研究を始めることとなります。もちろん、研究を職業になさっている先生方とは、幅も深さも違います。ですが、生徒の多くは、良き刺激を受けていると、集中して受講している彼らの表情から感じました。



* 足利大学から6名の、佐野日本大学短期大学から1名の、群馬医療福祉大学から2名の先生方にお越しいただきました。末筆ながら、この場を借りて、心より感謝申し上げます。